

宮崎県文化財調査報告書

第 39 集

平成8年3月

宮崎県教育委員会

宮崎県文化財調査報告書

第 39 集

平成8年3月

宮崎県教育委員会

序

埋蔵文化財の保護・活用につきましては、日頃より深い御理解をいただき、厚くお礼申し上げます。

宮崎県教育委員会においては、文化財の保護及び文化財指定のための調査や、土木工事等の諸開発事業に伴う遺跡の緊急発掘調査の報告を刊行し、文化財に対する理解をいただいているところであります。

この度は、平成6年度において行った西下本庄遺跡、右葛ヶ迫遺跡、広原地区遺跡の調査概要について収録しております。

本書が、社会教育・学校教育の場において広く活用され、あわせて学術研究上の資料として役立つことを期待いたします。

尚、調査に際してご協力いただいた地元の方々、及び市町村教育委員会の方々に深甚の謝意を表します。

平成8年3月

宮崎県教育委員会

教育長 田原直廣

例 言

1. この報告書は、宮崎県教育委員会が主体となって、平成6年度に実施した埋蔵文化財発掘調査の成果を収録したものである。
2. 掲載してゐる遺跡名・所在地・調査期間・執筆者は下記のとおりである。
3. 本報告書の編集は、宮崎県教育庁文化課が行つた。
4. 西下本庄遺跡は、平成5年度から調査を実施し6年度に終了した。右葛ヶ迫遺跡は、平成6年度から7年度に調査を実施した。また、広原地区遺跡は、平成6年度から調査を実施し8年度まで継続される予定である。

遺 跡 名	所 在 地	調 査 期 間	調 査 担 当
西下本庄遺跡	国富町大字本庄	平成6年1月13日 ～12月2日	山田洋一郎 戸高真知子 松林 豊樹
右葛ヶ迫遺跡	宮崎市大字折生迫	平成6年9月6日 平成7年3月31日	日高 広人 今城 正広
広原地区遺跡	高原町大字広原	平成6年1月17日 ～平成8年度 (予定)	和田 理啓

本文目次

第Ⅰ章 西下本庄遺跡の調査	1
第Ⅱ章 右葛ヶ迫遺跡の調査	6
第Ⅲ章 広原地区遺跡の調査	11
平成6年度発掘調査一覧	16

挿図・図版目次

西下本庄遺跡

第1図 遺跡位置図	1
第2図 土層柱状図	3
第3図 遺構分布図	3
図版1	4
図版2	5

右葛ヶ迫遺跡

第1図 遺跡位置図	6
第2図 遺構分布図	8
図版1	9
図版2	10

広原地区遺跡

第1図 遺跡位置図	11
第2図 遺構分布図	13
第3図 出土遺物実測図	14
図版1	14
図版2	15

第 I 章 西下本庄遺跡の調査

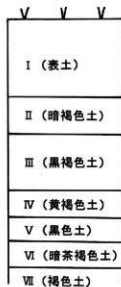
1 はじめに

宮崎県学校施設課では、平成5年度、6年度事業として宮崎県立本庄高校のグラウンド造成事業を計画した。この計画対象地は、昭和32年に当時のグラウンド北西隅を発掘調査した際、縄文後期の遺物や古代の窯跡、中世の遺物等が検出されていたことから遺跡として認識されていた。このことから、宮崎県文化課では、学校施設課の依頼を受け、平成5年8月26日～27日に試掘調査を実施した。その結果、調査対象地の大部分において縄文時代後期、古墳時代、古代～中世等の遺構、遺物が検出され、緊急調査が必要となった。発掘調査は平成6年1月13日～12月2日にわたって実施された。

2 遺跡の立地および層位

西下本庄遺跡は、大淀川支流の本庄川と深年に挟まれた標高40m内外のいわゆる本庄台地の丘陵南端に立地する。この台地は、高位段丘面(標高40～50m)と低位段丘面(標高20～30m)から構成されており、本庄古墳群や本庄地下式横穴墓群が高位、本遺跡が低位段丘面に展開している。

調査区における層序は一様ではなかったが、基本的には第1図のとおりである。包含層は第3層で、その上位から中世・古代、下位から古墳時代・縄文時代の遺構・遺物が検出された。調査区東半部ではこの黒色土中位で柱穴や溝といった遺構の検出を行っていたが、西半部では諸般の事情から第4層(アカホヤ)上面でおこなった。なお調査区南西側では第3層直下に第5層や第6層が堆積しており、その部分では各層の上面で検出をおこなった。



第1図 基本土層柱状図



第2図 位置図 (1/25,000)

3 検出遺構・遺物の概要

(1) 縄文時代（早期、後期、晩期）

早期では、天道ヶ尾式土器などの土器片がわずかにみられたのみで、確実な遺構は検出されなかった。

後期では、調査区の南西部に市来式系の土器を伴う堅穴住居跡が5件検出された。住居跡のプランは円形または不整形で、床面の凹凸が著しく、住居の掘りこみが浅く検出された。このほかに包含層から西平式系、小池原上層式といった外来系の土器がわずかながらみられた。

晩期では、孔列土器を伴う土坑1基が検出されている。

(2) 古墳時代

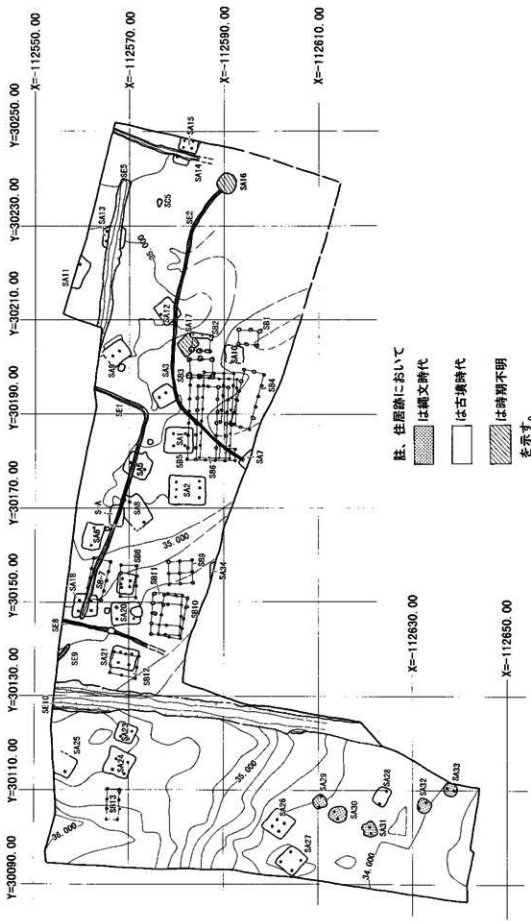
住居跡25軒、土坑数基、溝状遺構2条が検出された。S A 10、S A 24は出土した土師器の形態から古墳時代前期、S A 12はほぼ床面に直立した状態で須恵器の跡が出土しており、その形態が中村浩氏編年のI形式4段階に相当するとみられ、中期後半の時期が考えられる。その他の住居に関しては出土土器から概ね後期の範疇におさまるとみられ、本遺跡では古墳時代を通して集落が営まれたことが伺われる。

(3) 古代～中世

掘立柱建物13棟、溝状遺構4条、土坑数基、石組土坑3基、柱穴多数が検出された。掘立柱建物では棟方向や切合関係から最低でも4つのグループに分けることが可能である。溝状遺構では、S E 10から出土した貿易陶磁に11～14世紀の時期幅がみられるが、その大部分は12～13世紀のものである。S E 5で貿易陶磁よりも国産品が多くみられ、常滑焼の甕、壺類の口縁部の形態変化から、S E 10とは若干ずれる13世紀末～15世紀初頭の時期と考えられる。また、S E 5、10から出土した土師器はへら切、糸切が並存しており、なかには清明紋などの墨書がみられるものもあった。このほかS-A（仮称）では粘土と多量の土師器、陶磁器片の堆積がみられ、今後その性格などに注意を要する。

4 まとめ

現時点では遺物等も未整理のため、詳細な検討はできないが、古墳時代に関しては本庄古墳群・本庄地下式横穴墓群が展開している本庄台地における初めて確認された古墳時代集落であり、その意義は大きい。また、両墳墓群との時代的な重複が大きい点でも重要な遺跡といえよう。さらに、古代～中世の集落としても3×6軒3面庇を有するS B 5の存在、S E 5、10のような集落区画とみられる大溝やその出土遺物から、かなり有力な集落または居館であったことが伺われる。



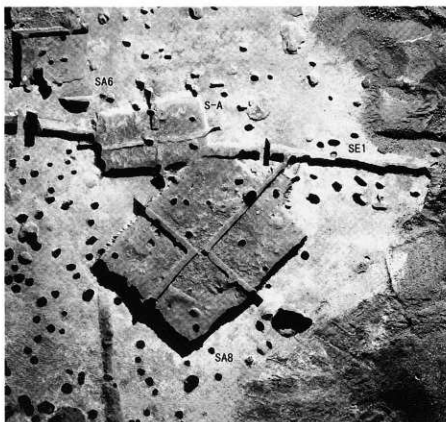
第3図 遺構分布図 (S=1/800)



調査区東半部



調査区西半部



遺構検出状況 1



遺構検出状況 2

第2章 右葛ヶ迫遺跡の調査

1. 遺跡の位置と環境

右葛ヶ迫遺跡は、JR青島駅より北西方向、標高333.5mの山塊より海岸に向かって延びる丘陵と海岸砂丘とが交錯する標高約10mの所に位置している。周辺との比高差は約5mであり、周囲の町並みや海岸線を一望できる。

右葛ヶ迫遺跡の周辺は、海岸砂丘が広がり、縄文海進後の遺跡が数多く見られる。当遺跡の北々西約300m先には昭和23年に宮崎大学考古学研究室、昭和49年には宮崎市教育委員会が発掘調査を行った、宮崎県内においても最大規模の縄文後晩期の貝塚である松添貝塚が立地する。また貝塚の西側には、隣接するように松添遺跡^(注1)が立地しており、宮崎市教育委員会が区画整備事業に伴い、平成4年から7年の4年間にわたり発掘調査が行われ、縄文後晩期の住居跡のほか、多量に土器片等の遺物が出土している。なお松添遺跡の北側の丘陵には、県指定「青島村古墳^(注2)」が立地している。

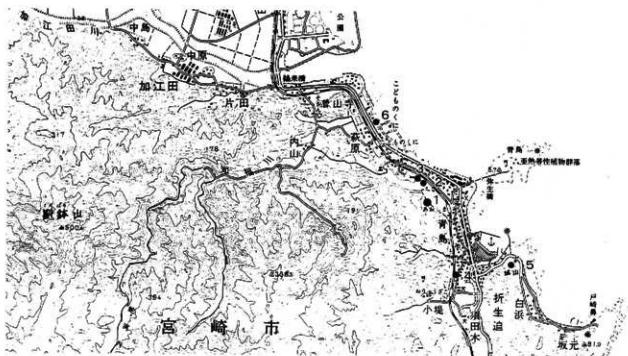
当遺跡の南々東約1km先の砂丘上には納屋向遺跡が立地し、昭和40年に宮崎高等学校により発掘調査が行われ、縄文後晩期の遺物と江戸時代の土壌墓が検出されている。

(参考文献)

『宮崎市遺跡等詳細分調査報告書Ⅱ〔リゾート地区を中心として〕』宮崎市教育委員会 1990

『松添貝塚』宮崎市文化財調査報告書 第2集 宮崎市教育委員会 1974

『松添遺跡 発掘調査速報展』みやざき歴史文化館 1993



1. 右葛ヶ迫遺跡
2. 松添遺跡(貝塚)
3. 青島村古墳
4. 納屋向遺跡
5. 紫波洲崎城跡(中世山城)
6. 子供の国遺跡

第1図 遺跡位置図(1/50,000)

注1) 宮崎市教育委員会 資料提供。

注2) 指定当時は5基あったが、宮崎市教育委員会が平成2年度から3年度にかけて現地踏査を行った結果、2基確認されている。

2. 調査の経過

国道220号線青島バイパス建設に伴い、予定路線内の宮崎市大字折生迫字右葛ヶ迫周辺は周知の遺跡であることから建設省との協議の結果、県教育委員会が主体となり平成6年9月6日から平成7年3月31日、さらに平成7年度に継続して調査を行った。

調査区を、北側から、A・B・C・D・E区と設定し、調査区共通の5mグリットを組んで調査を進めた。まず調査は旧道より日東興業青島ゴルフ倶楽部に通じる私道を閉鎖し、あらたに取り付け道路を緊急に予定路線内に建設するため、その箇所(B区)より開始した。

調査の結果、縄文時代では縄文後期の住居跡1軒・集石遺構2基、晩期の集石遺構1基^{注3)}が検出されている。遺物では、縄文後期前半の指宿式土器が主体をなし、その他に岩崎系・市来系の土器が、また晩期では孔列土器、突帯文、黒色磨研土器が出土している。石器では石錘がその大半を占め、石鏃・石匙・尖頭器・スクレイパー、その他に石斧・台石・軽石製品・勾玉等が出土している。

弥生時代後期の遺構では、住居跡1軒(SA6)検出されたが、プランは不明瞭であった。遺物としては、瀬戸内系の凹線文土器も出土している。

古墳時代の遺構は、住居跡5軒(SA2~5、7)検出されている。SA3では、住居跡内より耳環が2点出土しており、同様の例が宮崎市山崎町の上ノ原第2遺跡^{注3)}でも確認されている。またSA1では、住居跡内でカマドが検出されており、遺物より6世紀代に想定されるが、なお検討を要する。

その他に溝状遺構4条、土坑3基検出されているが、いずれも埋土中の遺物の時期が混在しており、時期を確定するに至らず、検討を要する。

A区では溝状遺構2条、竅穴状遺構2基検出されている。うち、竅穴状遺構1基には溝状遺構が連結しており、溜井の可能性もある。なお、調査途中のため時期不明である。

3. まとめ

調査途中のため、今後、詳細に検討していくことにし、未発掘の部分に集落がどのように広がるのか、またどの様に変遷していくのか、集落の全体像の把握が必須課題といえよう。

今回の調査で、縄文後晩期については松添貝塚周辺で住居跡が確認されたのは松添遺跡^{注4)}について2例目である。また、古墳時代においては、青島村古墳周辺で集落が確認されたのは初例であり、これらの遺跡との関連が目玉される。今後の調査によって、これらの課題と多くの問題点が明らかにされることに期待したい。

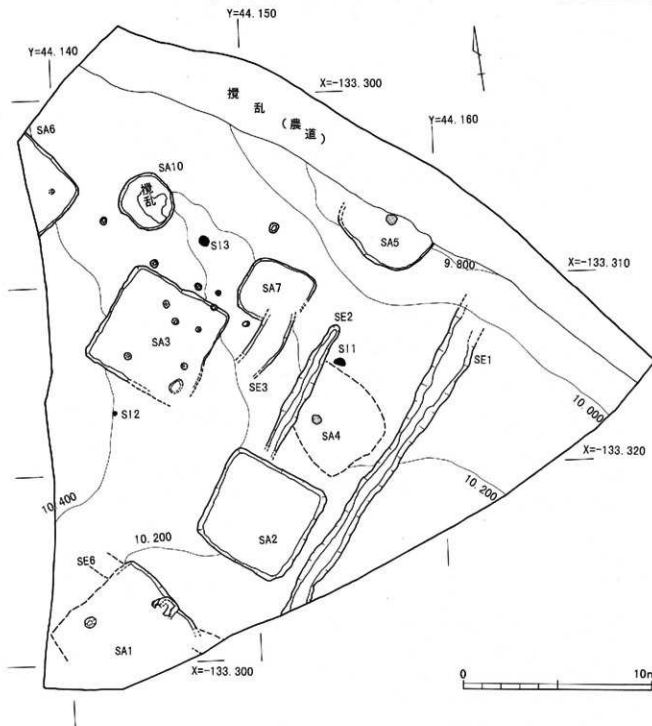
注3) 平成5年度、宮崎県教育委員会調査、戸高眞知子氏御教示による。

注4) 平成5年度、宮崎市教育委員会調査



第2図 調査区および周辺地形図 (1/4,000)

0 200m



第3図 B区 遺構分布図 (1/200)



調査区全景（北方向より）



A区（南より）



1号竪穴住居跡（西方向より）



B区 遺物出土状況（西方向より）

第三章 広原地区遺跡の調査

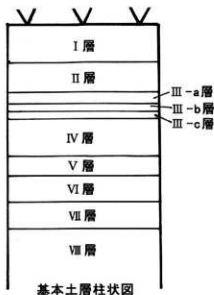
I. はじめに

広原地区遺跡は西諸県郡高原町大字広原字荒迫に所在する。岩瀬川の支流である辻の堂川の南西約1.5kmに標高約200mの丘陵が広がっており、遺跡はこの丘陵の東南に位置する。遺跡周辺には、北東に約2kmに湯ノ崎地下式横穴墓群、南に数百mに平成6年度の調査で古墳時代の住居跡が30軒近く検出された立山遺跡などの遺跡が存在する。また、南に1km程下ると縄文後期の包含層が広がる大谷遺跡が存在するなど、数多くの遺跡が存在する。

文化課では、宮崎フリーウェイ工業団地造成事業に伴い広原地区遺跡の試掘調査を平成5年に実施し遺物の出土を見たので平成7年1月17日から発掘調査を行った。その結果、古墳時代の住居跡4軒と、土壇3基、溝状遺構1条のほか畠跡が調査区のかかなり広い範囲で検出された。

II. 発掘調査の結果

この遺跡の土層では黒褐色土の表土（I層）の下に25～30cmの高原スコリアと呼ばれる褐色の焼けボラの層（II層）がたい積し、その下の黒褐色土の層（III層）の中にも灰白色の火山灰層（III-b層）が観察できた。黄褐色土層（IV層）中には御池ボラが検出され、その直下には牛ノ脛上層（V層）下層（VII層）と呼ばれる火山灰がアカホヤ火山灰（VI層）を挟み込むようにたい積しており、その下の褐色ロームの層に達するまでには2m前後の深さとなる。遺物はIII-c層から平安時代の土師器が出土し、IV層からは主に弥生時代末期から古墳時代にかけての遺物が出土した。またIV層からは若干ではあるが、縄文時代末期の遺物が出土している。



第1図 位置図 (1/25000)

Ⅲ. 遺構と出土遺物

1：土壌

当遺跡では、3基の土壌が検出された。このうち、SC1からは、土器片が一片と黒曜石の剥片が出土した。ただし、出土位置などから流れ込みの可能性が高いと思われる。SC2からは、遺物は出土しなかった。また、SC3からは、高台付の土師器碗（第3図-2）が出土した。SC1、SC2ともに資料に乏しく、時期や性格を決定する事ができなかった。SC3は、高台付の碗が床面直上から出土していることから9世紀の後半代であると思われる。また、SC3の床面は広範囲に焼土が分布していた。

2：住居址

住居址は4軒検出され、SA1からは土師器の甕（第3図-1）のほか、高坏の脚部などの土器片が出土した。SA2、SA3、SA4ともに、古墳時代初頭のものであると思われる土師器片が出土しており、おおよそ、この時期に比定されてよいとおもわれる。

3：畝状遺構

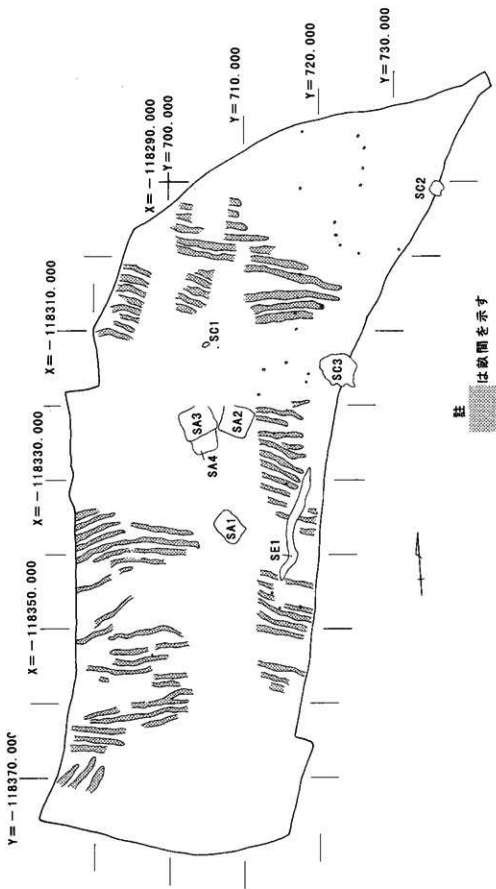
調査区の広範囲にわたって、IV層にⅢ-a層の土がかんだ状態で畝状遺構（第2図）が検出された。埋土の状態から、SC3とごく近い時期のものと思われるが、時期決定の決め手に欠く。古代の畝跡であろう古環境研究所の分析では、プラントオバールの検出はされず、陸稲や雑穀類の栽培が行われていたとは考えにくく結果となった。根菜類などにはプラントオバールがないことから、あるいは、そのようなものの栽培が行われていたのかもしれない。畝幅は、60～80cmと広い。また、調査区壁面で確認したところ、畝高は、15～20cm程度であった。

4：その他の遺構

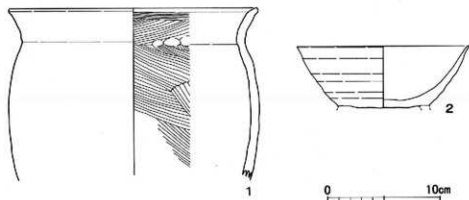
時期不明のピットが20基ほど検出された。すべて、スコリア上部からの掘込みであり、遺物の出土は見られなかった。

Ⅳ. まとめ

4軒の住居址以外には、全体に遺構の時期、性格等の十分な検討が行える資料に乏しい。その中で目を引くのが、高原スコリア下で検出されたSC3から出土した土師器である。高原スコリアは、今まで788（延暦7）年の噴火によるものといわれていたが、この土師器の年代観とは大きくかけ離れており、再考が必要である。畝状遺構に関しては、現在検討中ではあるが、畝幅、畝高などから、またプラントオバールが検出されていないことから、栽培されていた作物をある程度限定できるかもしれない。また、畝間が整然とならんで検出されており何度も耕作された形跡が見られないことから、ごく短期間で放棄された可能性がある。



第 2 図 遺構分布図 (S = 1 / 500)



第3圖 出土遺物実測図

図版
1



遺跡遠景



遺構検出状況



畝状遺構検出状況

番号	遺跡名	所在地	発掘期日	主体	調査員	面積・時期・遺構・遺物等	備考
20	西北田遺跡	新富町大字上高田字西北田	6.5.23 6.6.3	県	菅付和樹	45㎡	確認(県営ほ場整備)
21	立山遺跡	高原町大字西麓字立山	6.5.9 6.8.31	町	永友良典	500㎡	確認(学校建設)
22	弓田遺跡	南郷町大字榎原字白坂144-1	6.5.16 7.3.31	町	永友良典 面高哲郎	50㎡	確認(ゴルフ場建設)
23	谷之口遺跡	南郷町大字谷之口字城之内2092ほか	6.5.16 7.3.31	町	永友良典	150㎡	確認(ゴルフ場建設)
24	一里山第1遺	高岡町大字浦之名字小田元	6.5.20 6.5.24	町	島田正浩	100㎡	確認
25	黒草第1・第3遺跡	田野町大字黒草字黒草原向12650-1ほか	6.6.5 6.6.9	県	石川悦雄	30㎡	確認(国営農業水利事業)
26	南町遺跡	門川町大字門川尾末字中原1068-2	6.6.6 6.6.15	県	久木出浩子 谷口武範	518㎡、縄文土器(後晩期)石錘 磨石、磨製石斧	国道改良(国道10号)
27	田谷・尻枝遺跡	都城市南横市4030-13ほか	6.6.10 6.6.15	市	米澤英昭	24㎡	確認(倉庫建設)
28	二本杉遺跡	えびの市大字坂元字二本杉	6.4.5 6.8.31	市	中野和浩	6,000㎡、縄文早期(墓石遺構2基) 弥生後期(花弁状5軒・円形住居) 土壇墓2基、縄文土器、弥生土器、石錘	ゴミ処理場建設
29	延岡城跡(藩校跡・内堀跡)	延岡市本小路39-1	6.5.10 6.9.30	市	山田聡	1,500㎡、足跡(弥生終末～古墳初期) 獨立建物跡3棟(中世2、近世1) 井戸跡 礎石、礎跡、木製品、欠板、土師器、 輸入陶磁器、夏永通寶、国産陶磁器	図書館建設整備
30	旭ヶ丘遺跡B地区	川南町大字川南字旭ヶ丘	6.5.31 6.6.4	町	島岡武	300㎡	確認(町道改良)
31	番野地A遺跡	川南町大字川南番野地	6.6.1 6.6.4	町	島岡武	1,800㎡	確認(町道改良)
32	赤石遺跡	川南町大字川南赤石	6.6.1 6.6.4	町	島岡武	2,578㎡	確認(無線中継所建設)
33	東草場遺跡	日向市大字富高6958	6.6.6 6.6.10	市	緒方博文	100㎡	確認(個人住宅)
34	寺崎遺跡	西部市大字右松2802	6.6.20 6.8.12	県	橋本英俊 長津宗重	1,500㎡、戦六位屋跡2軒(古墳時代) 土壇2基、溝状遺構4条、獨立柱建物跡1棟、布疋瓦、鉄用規	遺跡整備
35	黒土田遺跡	延岡市細見町3285	6.6.22 6.12.27	市	尾方農一	6,900㎡、墓石遺構(早期4基、旧石器4基) 竪穴住居跡3軒(弥生終末～古墳初期) 古墳間溝(6C代) 旧石器、須恵器	ほ場整備
36	野中第3遺跡	高城町大字石山字野中	6.6.27 6.8.31	町	白谷健一	7,000㎡	公園造成
37	三角遺跡	都城市五十町1116	6.6.29 6.7.1	市	横山哲英	28㎡	確認(宅地造成)
38	上冷水遺跡	都城市安久町6112-13ほか	6.6.22 6.7.1	市	桑畑光博	714.11㎡	確認(梅北豊満線)

番号	遺跡名	所在地	発掘期日	主体	調査員	面積・時期・遺構・遺物等	備考
39	黒草第1・第3遺跡	田野町大字黒草字黒草原向12650—1 ほか	6. 7. 7 ~ 6. 9. 30	県	石川悦雄	1,900㎡、柱六群、縄文後期土器	国営農業水利事業
40	阿部ノ木遺跡	宮崎市池内町阿部ノ木2247	6. 8. 1 ~ 6. 8. 31	市	中山 豪	20㎡、旧石器、縄文土器、石器	電気鉄塔工事
41	緑ヶ丘遺跡	西都市大字茶臼原字緑ヶ丘291—7	6. 7. 18 ~ 6. 9. 30	市	齋方政幾	3,000㎡、縄文時代早期、集石遺構14基、弥生中期、花卉状住居跡1群、両溝状遺構2条、縄文土器、弥生土器、石包丁	工場建設
42	平城遺跡	西都市大字三納字平城	6. 7. 15 ~ 6. 7. 15	県	菅付和樹	30㎡	確認（農村広域生活環境整備事業）
43	坂本城跡	五ヶ瀬町大字三ヶ所3271—2	6. 7. 6 ~ 6. 7. 13	県	菅付和樹 東 憲章	300㎡	確認（建物建設）
44	旭ヶ丘遺跡B地区	川南町大字川南字旭ヶ丘	6. 5. 31 ~ 6. 6. 4	町	島岡 武	300㎡	確認（町道改良）
45	橋上遺跡	高岡町大字浦之名3022 ほか	6. 7. 15 ~ 6. 9. 30	町	島田正浩	2,000㎡、縄文中期（濠群 集石遺構2基）近世（通路状遺構）縄文土器（滑平・吉田・押型文）石環、小型磨製石斧	農業関連
46	寺ノ上遺跡	日向市大字日知原字寺ノ上12047 ほか	6. 7. 25 ~ 6. 10. 30	市	緒方博文	4,200㎡ 旧石器（集石遺構4基、ナイフ形石器、剥片尖頭部）縄文時代早期（集石遺構13基、押型文、石環）	区画整理
47	池原遺跡	都城市裏原町1873—12 ほか	6. 7. 25 ~ 6. 7. 30	市	桑畑光博	16㎡	農道建設
48	久玉遺跡	都城市郡元町3049—9 ほか	6. 8. 1 ~ 6. 9. 30	市	横山哲英	3,000㎡ 竪立建物9棟、溝状遺構23条、井戸4基、土坑3基、遺跡状遺構、掘石状遺構1基、柱六群、瓦片・輪軸陶器、靱石製瓦輪石、土師器、土師質土器、瓦質（古新元水滸器）	区画整理
49	本野原遺跡・黒草第2遺跡	田野町大字元野字本野原甲12789—1 ほか	6. 8. 12 ~ 6. 9. 30	県	石川悦雄	1,300㎡、竪立建物跡2棟、溝状遺構1条、柱六群、縄文後期土器	国営農業水利事業
50	上原遺跡	高城町大字有水字牧原1452	6. 8. 8 ~ 6. 8. 9	県	水友良典	50㎡	確認（無線中継所建設）
51	兔田遺跡	国富町大字深年	6. 8. 10 ~ 6. 8. 10	県	谷口武範	100㎡	確認（県道改良）
52	白坂谷遺跡	川南町大字平田字垂門	6. 6. 27 ~ 6. 7. 8	町	島岡 武	60㎡	確認（公園造成）
53	旭ヶ丘遺跡	川南町大字川南字旭ヶ丘	6. 7. 7 ~ 6. 7. 30	町	島岡 武	90㎡、旧石器剥片、弥生土器	町道改良
54	番野地A遺跡	川南町大字川南番野地	6. 7. 20 ~ 6. 8. 10	町	島岡 武	100㎡、ナイフ形石器、礫	町道改良
55	松添遺跡	宮崎市大字折生迫字下箸方476 ほか	6. 8. 1 ~ 6. 9. 30	市	中山 豪	200㎡、竪穴状遺構1基、縄文土器、石器	区画整理
56	笹ヶ山遺跡	川南町大字川南字北原	6. 8. 2 ~ 6. 8. 10	町	島岡 武	100㎡	確認（町道改良）
57	北牛牧第1遺跡	高鍋町大字上江字北牛牧	6. 8. 17 ~ 6. 8. 26	県	菅付和樹	150㎡	確認（農村基盤総合整備プロジェクト）

番号	遺跡名	所在地	発掘期日	主体	調査員	面積・時期・遺構・遺物等	備考
58	橋ノ口遺跡	高城町大字石山字橋ノ口214	6. 8. 22 ～ 6. 8. 3	町	白谷 健一	20㎡	確認 (工場建設)
59	右葛ヶ追迫跡	宮崎市折生追字倉元	6. 9. 6 ～ 7. 3. 31	県	日高 広人	10,000㎡、竈穴住居跡7軒(弥生前期1・古墳6) 溝状遺構5基、集石遺構2基(縄文後期2・晩期) 縄文土器(市来式、指書・黒色布目・孔列文・安曇文) 石鏡、石造、結石製品、布目土器	国道改良(青島バイパス建設)
60	山ノ田第1遺跡(1次調査)	都城市九谷町1601 ほか	6. 9. 7 ～ 6. 9. 30	県	山田 洋一郎	1,800㎡、竈穴住居跡7軒(弥生終末～古墳時代)	県道改良(高城山田線)
61	細井地区遺跡	高城町大字有水1452-13	6. 9. 1 ～ 6. 12. 28	町	白谷 健一	10,000㎡、竈穴住居跡5軒(縄文後期3、縄文晩期1、弥生前期) 竈立遺物跡1、土壇 縄文土器(市来式、黒川式、孔列文) 石鏡 石斧、磨盤、骨土	県営農地保全整備
62	速日峰地区遺跡	北方町巳	6. 8. 18 ～ 6. 10. 31	町	小野 信彦	8,500㎡、縄文時代中期(集石遺構1基、押型文、石鏡) 古墳時代(埴穴、土師器、須恵器、磨盤、石斧) 溝ノ内(中世前期) 竈穴遺構1基、竈立遺物跡1基、土壇(中世) 田石製鉄所、竈と土坑遺構1基	ほ場整備
63	永泊第2遺跡	田野町21179-1 ほか	6. 9. 12 ～ 7. 3. 31	町	白岩 修	10,000㎡、集石遺構7基(縄文前期) 土坑3基、柱穴、縄文土器(早期・前期) 土師器、石器	県営農地保全整備
64	西都原古墳群	西都原大字三宅字馬場崎4398-1 ほか	6. 9. 5 ～ 6. 9. 13	市	養方 政幾	42㎡	確認 (区画整理)
65	大淀3号墳周廻遺跡	宮崎市時宗1704 ほか	6. 9. 5 ～ 6. 10. 30	市	中山 豪	2,585.46㎡、周溝1、溝状遺構1基、地下式炊爨構1基、大型土坑、2室1段方形土器2、土師器、石器、土鏡、水運水甕	スーパー建設
66	橋原・尾平遺跡	田野町尾平平砥越 ほか	6. 9. 13 ～ 6. 9. 14	県	面高 哲郎	100㎡	確認(県営ほ場整備)
67	田代地区遺跡(上田代・松山・竹之内遺跡)	えびの市大字末永	6. 8. 31 ～ 7. 3. 31	市	中野 和浩	30,000㎡、上田代(縄文後期晩期/弥生前期)、古墳群(古墳1基) 松山(縄文後期晩期/弥生前期) 弥生前期晩期(7) 跡跡(完全中) 竹之内(縄文時代) 竹之内(縄文時代) 古墳群(古墳1基) 竹之内(弥生前期) 土坑 縄文土器(式、曲型) 古墳の表石	県営ほ場整備
68	祝吉第3遺跡	都城市郡元町3427 ほか	6. 9. 8 ～ 6. 9. 9	市	横山 哲英	20㎡	確認 (区画整理)
69	宗仙寺2号地下式横穴墓	国高町大字本庄4155-2	6. 9. 8 ～ 6. 9. 14	町	新名 祐史	8㎡、地下式横穴墓1基(竈入有) 床・天井部、壁面に糸による引文 鉄剣2、鉄鏡1 鉄鏡片50、刀子1基、鉄製品片2、人骨1件等	遺跡発見調査後埋め戻し
70	高野原遺跡	田野町甲13119 ほか	6. 9. 5 ～ 7. 3. 31	町	森出 浩史	35,000㎡、集石遺構1基(縄文早期) 竈穴住居跡(縄文後期) 22弥生後期(1) 竈立遺物跡37棟、地下式横穴墓3基、縄文土器(早期・晩期) 弥生前期土器、土師器、鉄鏡、刀子、石鏡	県営農地保全整備
71	塚の本遺跡	高鍋町大字持田字中大久保4651-1	6. 9. 13 ～ 6. 9. 16	町	山本 格	30㎡	鉄塔建設
72	中ノ迫遺跡	南郷町大字複原 ほか	6. 9. 20 ～ 6. 9. 22	県	永友 良典	100㎡	確認
73	西都原地区遺跡	西都原大字三宅字東立野4851 ほか	6. 9. 19 ～ 7. 3. 31	市	養方 政幾	30,000㎡、縄文時代早期、集石遺構1基、弥生中期、竈穴住居跡4軒、古墳時代、横穴墓6基、川原南溝2基、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、耳環、刀子、石鏡、石斧	ほ場整備
74	猫坂地区遺跡	小林市大字北西字猫坂2986 ほか	6. 9. 12 ～ 7. 1. 31	市	中村 真由美	4,350㎡、縄文時代早期集石遺構4基、縄文土器、石鏡、石棒、剃片、弥生土器	ゴルフ場建設
75	鉄肥城下町遺跡	日南市大字楠原4233-4	6. 9. 22 ～ 6. 9. 30	市	岡元 武憲	464㎡	史跡整備
76	鉄肥城下町遺跡	日南市大字楠原3908 ほか	6. 9. 22 ～ 6. 9. 30	市	岡的 場 武 憲 明	1,185.34㎡	駐車場

番号	遺跡名	所在地	発掘期日	主体	調査員	面積・時期・遺構・遺物等	備考
77	中之原遺跡	高千穂町大字押方	6.9.26 ～ 7.2.28	県	和田 理 啓 二 米久田 真 二	6,000㎡	国道改良(高千穂バイパス建設)
78	北牛牧第1跡	高鍋町大字上江字北牛牧	6.9.26 ～ 6.12.27	町	山 本 格	2,000㎡	確認(農村基盤総合整備プロジェクト事業)
79	地主原遺跡	南郷町大字津屋野字地主ヶ原2493 ほか	6.7.18 ～ 6.9.30	県	永 友 良 典	100㎡	確認(ゴルフ場建設)
80	谷之口遺跡	南郷町大字谷之口字城之内2110 ほか	6.9.13 ～ 6.9.30	町	永 友 良 典	400㎡	確認(ゴルフ場建設)
81	稲荷下遺跡	えびの市大字坂元字二本杉	6.10.3 ～ 6.10.31	県	永 友 良 典	100㎡	確認
82	芋畑第1遺跡	えびの市大字坂元字山内	6.10.3 ～ 6.10.31	県	永 友 良 典	50㎡	確認
83	加治原遺跡	都城市南横市町2069-1	6.10.4 ～ 6.12.9	市	桑 畑 光 博	386.99㎡ 弥生後期(竪穴住居跡1軒、土坑4基、柱穴) 中世(土坑4基、柱穴、道路状遺構) 縄文後期土器、弥生後期土器、土師器	農道建設
84	池原遺跡	都城市養原町1873-12	6.10.5 ～ 6.10.31	市	横 山 哲 英	206㎡ 柱穴群(縄文晩期-弥生後期) 縄文土器(晩期) 弥生土器、磨製石鏃	宅地造成
85	十三東遺跡	都城市上水流町字十三東	6.9.12 ～ 6.9.29	市	桑 畑 光 博	36㎡	確認(最終処分場建設)
86	屏風谷遺跡	都城市上水流町字屏風谷	6.10.31 ～ 6.10.31	市	米 澤 英 昭	12㎡	確認(最終処分場建設)
87	中須遺跡	都城市上水流町字中須	6.10.17 ～ 6.10.21	市	米 澤 英 昭	24㎡	確認(最終処分場建設)
88	松ヶ迫遺跡	都城市上水流町字松ヶ迫	6.10.24 ～ 6.10.28	市	米 澤 英 昭	84㎡	確認(最終処分場建設)
89	平城遺跡(三納城跡)	西都市大字三納字平城	6.10.11 ～ 6.10.28	県	養 方 政 幾	410㎡ 柱穴、中近世陶磁器	農業関連(道路拡幅)
90	西都原遺跡	西都市大字二宅字寺原5276	6.10.4 ～ 6.10.5	市	養 方 政 幾	32㎡	排水路
91	都於郡城本丸	西都市大字鹿野出字高屋6438	6.11.1 ～ 6.11.11	市	養 方 政 幾	100㎡	公園造成
92	山下第3遺跡	宮崎市大字加江町字山下530-1 ほか	6.11.1 ～ 7.1.31	市	中 山 肇	4,300㎡ 溝状遺構3条、土坑3基、落とし穴1基、集石遺構5基、縄文土器、弥生土器、土師器(奈良～平安)	区画整理
93	高岡籠遺跡	高岡町大字飯田字井ノ上388-1 ほか	6.10.20 ～ 6.12.20	県	久木田 浩 子	1,495㎡ 竪穴住居跡2軒(古墳時代初期) 土坑31基(平安3、近世29) 溝状遺構5条、建物礎石、陶磁器、銅銭	郵便局庁舎
94	西都原古墳群	西都市大字三宅3971	6.10.19 ～ 6.10.21	市	養 方 政 幾	20㎡	確認
95	香積寺跡	高岡町大字高浜	6.10.28 ～ 6.10.28	町	島 田 正 浩	10㎡	確認

番号	遺跡名	所在地	発掘期日	主体	調査員	面積・時期・遺構・遺物等	備考
96	祝吉第3遺跡	都城市都元町3427 ほか	6.11.7 ～ 6.11.30	市	横山哲英	340㎡ 竪立礎物跡2棟、環状遺構5基、井戸2基、土坑4基、環状遺構5基、柱穴群、陶器、船載陶磁器、土師器、磁石	宅地造成
97	尾平橋原遺跡	清武町大字今泉4770-1 ほか	6.11.1 ～ 7.2.17	県	吉本正典 鎌田次郎	5,000㎡ 縄文時代早期(築石遺構)高砂群2ヶ所・貝類文系、埴輪文系)古墳時代(壘穴住居跡1軒)ミニチュア土器	県営特殊農地保全整備
98	南町遺跡	門川町大字門川尾末929 ほか	6.10.6 ～ 7.1.31	町	窪田麗子	160㎡ 縄文土器、須恵器、土師器、石鍾、凹石、石鏡	区画整理
99	石ヶ峰遺跡	佐土原町大字下那珂字石ヶ峰	6.7.11 ～ 6.9.2	町	木村明史	17,529.08㎡	墓地公園
100	童子丸地区古墳	西都市大字童子丸558-イ	6.11.1 ～ 6.11.8	市	斐方政幾	40㎡	遺跡整備
101	連日峰地区遺跡	北方町已早下	6.11.7 ～ 6.11.11	県	菅付和樹	50㎡	確認(県営ほ場整備)
102	一本松遺跡	高城町大字石山字一本松4148 ほか	6.11.1 ～ 6.12.2	町	白谷健一	1,051㎡ 土壇(縄文1、弥生3) 壘穴住居跡1(古墳時代) 柱穴群、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器	公園造成
103	喜呂女木遺跡	高岡町大字小山田2923 ほか	6.11.8 ～ 6.11.9	町	島田正浩	10㎡	確認
104	一里山第1遺跡	高岡町大字浦之名4907-158	6.11.15 ～ 6.11.16	町	島田正浩	10㎡	確認
105	木之前薬師	都城市下長飯1882 ほか	6.11.14 ～ 6.11.16	市	米澤英昭	20㎡	確認(公園整備)
106	浄土寺山古墳	延岡市大貫町5丁目1529-1	6.11.14 ～ 6.11.30	市	山田聡	100㎡ 段築二段、須恵器、土師器、弥生土器、縄文土器、古鏡(須永通寶)	建物建設
107	奥野B遺跡	日向市大字塩見7948	6.11.16 ～ 6.11.30	市	緒方博文	350㎡	確認(団体営土地改良整備)
108	鬼田遺跡	国富町大字八代2708	6.11.22 ～ 6.12.20	県	戸高真知子	306㎡ 溝状遺構(近世)、柱穴、陶磁器	県道改良(都農連続)
109	中ノ果遺跡	延岡市大貫1丁目	6.11.24 ～ 6.12.22	県	橋本英俊	500㎡ 近世:水田(畦畔)、陶磁器	合同庁舎建設
110	志戸平遺跡	新富町大字三納代字風早156 ほか	6.11.28 ～ 6.12.16	県	和田理啓	300㎡ 植物遺体、弥生土器(後期) 土師器	河川改良(鬼付女川)
111	大倉田遺跡	都城市美川町大倉田8 ほか	7.1.20 ～ 7.1.30	県	石川悦雄	20㎡	確認(国営農用地総合整備)
112	新田原古墳群第58.62.63号墳	新富町大字新田字東俣14691 ほか	6.5.1 ～ 7.3.31	町	有田辰美	300㎡ 円筒埴輪	遺跡整備
113	北田地区遺跡	新富町大字上富田字北田15944-7 ほか	6.8.8 ～ 7.2.28	町	有馬義人 有田辰美	40,000㎡ 壘穴住居跡(弥生時代17軒以上・古墳時代22軒以上、カマド付アリ) 竪立礎物跡15棟以上、溝状遺構跡、不明土坑1基、土師器、須恵器 鉄製品(刀下・鉄槌) 石製品(石斧・磁石、石鏡)	県営総合パイロット事業
114	西都原古墳群	西都市大字三宅4275-イ ほか	6.11.28 ～ 6.12.2	市	斐方政幾	100㎡	確認(区画整理)

番号	遺跡名	所在地	発掘期日	主体	調査員	面積・時期・遺構・遺物等	備考
115	延岡城跡	延岡市本小路 157 ほか	6. 11. 30 ~ 7. 1. 31	市	山田 聡	600㎡ 掘立建物跡1棟、礎石建物1棟、階段遺構、敷石状遺構1、陶磁器、土師器	公園造成
116	妙見原遺跡	えびの市大字原 字妙見原1946 -2 ほか	6. 12. 6 ~ 6. 12. 13	県	永友良典	50㎡	確認(県営ほ 場整備)
117	平峰遺跡	都城市平塚町 4312 ほか	6. 12. 8 ~ 6. 12. 9	市	米澤英昭	20㎡ 溝状遺構4条、土坑15基、道路状遺構5条、柱穴群、瓦産・板敷陶磁器、須恵質土器、土師器、弥生土器(前期~後期)	確認 (宅地造成)
118	塚の本遺跡	高鍋町大字持印 字中大久保4654 -1	6. 12. 7 ~ 7. 1. 17	町	山本 格	220㎡	鉄塔建設
119	枝 遺跡	門川町大字加草 字枝	6. 12. 14 ~ 6. 12. 15	県	谷口武範	50㎡	確認 (県道改良)
120	横谷遺跡	延岡市片田	6. 12. 13 ~ 6. 12. 22	県	山田洋一郎	200㎡ 二次堆積貝層	河川改良 (沖田川)
121	前ノ原遺跡	小林市大字細野 字竹山	6. 12. 14 ~ 6. 12. 16	県	永友良典	50㎡	確認
122	西部原古墳群	西都市大字三宅 4390-1 ほか	6. 12. 8 ~ 6. 12. 12	市	巽方政幾	60㎡	確認 (区画整理)
123	坂本城跡	五ヶ瀬町大字三 ヶ所3271-2	6. 12. 19 ~ 6. 12. 20	町	菅付和樹	50㎡	建物建設
124	島内地下式 横穴群	えびの市大字島 内1135-215	6. 8. 1 ~ 7. 3. 31	市	中野和浩	300㎡ 地下式横穴64基、埴甲1、甲1、鉋1、刀11、鉋12、鉋行刺、鉄錐261、骨114、刀子38、鋸5、斧1、貝輪25、耳環1、管1、人骨113体	遺跡発見
125	白坂谷遺跡	川南町大字平田 字垂門	6. 12. 15 ~ 7. 3. 31	町	島岡 武	1,000㎡ 礎群(A・T直上) 交互刻離、石核、三稜尖頭器	公園造成
126	郡司分地区 遺 跡	宮崎市大字郡司 分	7. 1. 11 ~ 7. 3. 31	県	橋本英俊 久木田 浩子	4,000㎡ 柱穴、溝状遺構、土塊、弥生土器多数(中期) 土師器、須恵器	区画整理
127	上川久保地区 遺 跡	西郷村大字小原 字久久保	7. 1. 9 ~ 7. 1. 12	県	菅付和樹	50㎡	確認(県営中山 間活性化事業)
128	生目古墳周 辺 遺 跡	宮崎市大字跡江 字井尻 ほか	7. 1. 10 ~ 7. 2. 28	市	中山 豪	2,000㎡ 地下式横穴6基、二段掘土層、半地下式土層2基、土坑4基、型穴式遺構1基、溝状遺構2基、祭坛(字・塚・地・刀子・鉄線)	遺跡整備
129	広原地区遺 跡	高原町大字広原 字光迫	7. 1. 17 ~ 7. 3. 31	県	利田理啓	4,000㎡ 型穴住居跡4軒(古墳時代) 土壘1基、竪穴遺構(古?) 土師器 石包丁、磨石遺文	工業団地造成
130	岩崎遺跡	高岡町大字下倉 永字岩崎	7. 1. 17 ~ 7. 2. 28	県	松林豊樹	350㎡ 陶磁器	県道改良 (高岡郡司分線)
131	立山遺跡	高原町大字西麓 字立山	7. 1. 9 ~ 7. 3. 31	町	面高哲郎 永鎌典次	10,000㎡ 型穴住居跡30軒、掘立建物跡2-3棟(カマド、焼土) 柱穴群、土師器(内黒含む) 須恵器、石包丁、磨石等、柱石製品	学校建設
132	稲荷下遺跡	えびの市大字版 元字二本杉795 ほか	7. 1. 11 ~ 7. 2. 28	県	永友良典	1,000㎡ 古代(掘立建物1棟、溝状遺構1条、土壘) 土師器	農免道路
133	鍋山遺跡	高岡町大字高浜 1070-1	7. 1. 11 ~ 7. 1. 12	町	島田正浩	500㎡	鉄塔建設

番号	遺跡名	所在地	発掘期日	主体	調査員	面積・時期・遺構・遺物等	備考
134	朝羽田遺跡 角ノ園遺跡	高岡町大字飯田 原田928 ほか	7. 1. 23 ~ 7. 2. 10	町	島田正浩	200㎡	確認 (区画整理)
135	城ヶ崎遺跡	高岡町大字花見 5557-1 ほか	7. 1. 23 ~ 7. 1. 23	町	島田正浩	10㎡	確認
136	本野原遺跡 黒草第2遺跡	田野町甲12855 ほか	7. 1. 23 ~ 7. 2. 3	県	菅付和樹	100㎡	確認(県営ほ 場整備)
137	枝 遺跡	門川町大字加草 迫ノ前2091-1 ほか	7. 1. 25 ~ 6. 2. 10	県	久木田 浩子	800㎡ 土壇2(古墳時代) 柱穴、溝状、 遺構、挟り入り片刃石斧、布留系鏃	県道改良
139	木城村古墳 27号	木城町大字高城 字岸立4301-10	7. 1. 31 ~ 7. 2. 14	県	戸高 真知子	100㎡ 横穴墓2基(新発見1基含む) 鉄鍬7、鉄刀1、須恵器、土師器	県道改良 (都農緑城)
140	高鍋城跡	高鍋町大字南高 鍋字田城内6916 -1 ほか	7. 1. 27 ~ 7. 2. 17	町	山本 格	170㎡	美術館建設
141	日知屋城跡	日向市大字日知 屋字伊勢道 189-7	7. 1. 30 ~ 7. 2. 1	市	緒方博文	66.36㎡	確認
142	影平遺跡	日南市木山2丁 目7598	7. 1. 30 ~ 7. 2. 10	市	岡本武憲 的場丈明	673㎡	日南病院建設
143	六本原遺跡	えびの市大字大 明司字六本原 1849-7	7. 2. 8 ~ 7. 3. 31	市	中野和浩	1,800㎡	農免道路
144	東堀遺跡	串間市大字西方 字東堀9108ほか	7. 2. 9 ~ 7. 2. 28	市	宮田浩二	250㎡	公園造成
145	本田地区遺跡	小林市大字東方 6125-59	7. 2. 13 ~ 7. 2. 28	市	中村 真由美	11,137.5㎡	遺跡整備
146	市谷地区遺跡	小林市大字真方 字大部3744ほか	7. 2. 13 ~ 7. 2. 20	市	中村 真由美	100㎡	確認(県営ほ 場整備)
147	高鍋城跡	高鍋町大字南高 鍋字田城内6952 -1 ほか	7. 2. 7 ~ 7. 3. 31	町	山本 格	600㎡	公園整備
148	時屋地区遺跡	清武町大字船引 4486 ほか	7. 2. 14 ~ 7. 3. 31	県	吉本正典 井田 篤	3,000㎡ No.3に内容含む	県営農地保全 整備
149	山ノ田第1 遺跡(2次 調査)	都城市丸谷町 1601 ほか	7. 2. 22 ~ 7. 2. 24	県	日高 広人	500㎡ 整穴住居跡(弥生後期~古墳時 代) 地下式横穴墓1基、土師器	県道改良 (高城山田線)
150	南町遺跡	門川町大字門川 尾末823-1	7. 1. 30 ~ 7. 2. 28	町	窪田 麗子	84㎡ 土壇2基、柱穴、土師器、須恵器、 土師、磨石、甲石、砥石、石斧、石剣、 銅文土器(後期)	区画整理
151	岡第4遺跡	清武町大字今泉 字岡甲846-1 ほか	7. 3. 13 ~ 7. 3. 17	町	伊東 但	40㎡	確認 (宅地造成)
152	田尻遺跡	三股町大字宮村 字田尻863-3	7. 3. 14 ~ 7. 3. 15	町	面高 哲郎	10㎡	確認
154	前田遺跡	北郷町大字北河 内字中原8175 ほか	7. 3. 13 ~ 7. 3. 15	町	時元 省二	543㎡	確認

番号	遺跡名	所在地	発掘期日	主体	調査員	面積・時期・遺構・遺物等	備考
155	山仮屋関所跡	北郷町大字北河内字山仮屋	7. 3. 15 ~ 7. 3. 20	町	時元省二	20㎡	遺跡整備
157	速日峰遺跡	北方町巳	7. 2. 23 ~ 7. 3. 31	町	小野信彦	6,000㎡ No.62の内容を含む	県営ほ場整備
158	上の原第1遺跡ほか	宮崎市大字細江字時雨柳迫ほか	7. 3. 24 ~ 7. 3. 29	県	菅付和樹	200㎡	確認(県営ほ場整備)
159	上冷水遺跡	都城市安久町6069-7ほか	7. 3. 27 ~ 7. 3. 30	市	米澤英昭	1,236.65㎡	鉄塔建設
160	四家地区遺跡	高城町大字四家字雀ヶ野250-7	7. 3. 24 ~ 7. 3. 28	町	白谷健一	100㎡	建物建設
161	白水遺跡	都農町大字川北14609ほか	7. 2. 27 ~ 7. 3. 31	町	吉永真也	5,000㎡ 集石遺構6基(縄文早期) 縄文土器、石鏃、弥生土器	公園造成

宮崎県文化財調査報告書

第**39**集

平成8年3月

発 行 宮 崎 県 教 育 委 員 会

編 集 宮 崎 県 教 育 庁 文 化 課

